

マルヤナギ×医薬基盤・健康・栄養研究所×加東市もち麦活用協議会 第3回「腸内フローラ大調査」結果説明会のご案内

～加東市の親子を対象にした腸内環境研究で、特産品「もち麦」をはじめとした食物繊維の大切さを啓蒙～

蒸し豆・煮豆・佃煮メーカーの株式会社マルヤナギ小倉屋（神戸市東灘区：代表取締役社長 柳本勇治）と国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（大阪府茨木市：理事長 中村祐輔）は、「腸内フローラ大調査」に関する結果説明会を2025年11月24日（月）11時より加東市役所にて開催致します。

「腸内フローラ大調査」では、もち麦を通じた地域活性化や市民の健康増進を目的に発足した「加東市もち麦活用協議会」の推進事業の一環として、特産品もち麦を含めた食物繊維の普及を目的に、2023年より加東市に住む子どもとその家族を対象に腸内フローラの観察研究を行っています。この度、この研究において2025年4月に実施した3回目の被験者の腸内細菌叢検査と生活習慣に関する調査、短鎖脂肪酸の測定結果が揃い、結果説明会を行う運びとなりましたので、ご案内いたします。



前年度結果説明会の様子（2024年10月5日）

第3回結果説明会 開催詳細

当日は国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所副所長兼ヘルス・メディカル微生物研究センターの國澤純センター長より、2025年4月26日に実施した加東市民被験者の腸内細菌叢の調査結果及び生活習慣に関するアンケート結果や短鎖脂肪酸測定結果などを説明します。

開催日時：2025年11月24日（月・祝）11:00～12:00（受付10:30～）

会場名：加東市役所 2階 201会議室

住所：〒673-1493 兵庫県加東市社 50番地

＜メディアのご取材お申し込み方法＞

株式会社マルヤナギ小倉屋 広報担当：小倉（おぐら）・児玉（こだま）

TEL：078-841-1456、e-mail：koho@maruyanagi.co.jp まで

電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。



国立研究開発法人医薬基盤・健康・
栄養研究所 副所長 兼
ヘルス・メディカル微生物研究センター
センター長 國澤純氏

「腸内フローラ大調査」の研究経緯

マルヤナギは、腸内フローラ大調査に先立ち、2020年10～12月にかけて加東市役所職員60名を対象に「もち麦喫食が腸内環境や食生活におよぼす影響」に関して調査を実施しました。厚生労働省「日本人の食事摂取基準 2020年版」にて食物繊維の摂取目標量は、18歳～64歳では1日あたり男性21g以上、女性18g以上と定められていますが、加東市職員の摂取量は男性10.1g、女性8.8gと少ない状態でした。その後もち麦を2ヶ月間喫食すると1日の食物繊維摂取量が平均3g増加しました。また腸内細菌叢の多様性についても喫食前は平均約770種類でしたが、約880種類に増加しました。（参考：腸内細菌叢には非常に多くの微生物が存在しており、その腸内細菌の種類が多い方が良いと言われています。特定の菌だけに偏るよりも、様々な菌が多種いる方が良いので、腸内細菌の多様性を高めることが重要です。）この結果より、食生活改善が腸内環境に影響を与える可能性があると考え、食生活を変えるには子どものころからの実施がより理想的で、子どもの食生活に影響を与えるのは保護者であることから、学校給食や食生活に地域産もち麦を取り入れる加東市に住む子どもとその家族の観察研究をする運びとなりました。子どもの腸内細菌叢の観察研究は国内でも例が少なく、子どものころからの食生活が腸内環境へどのように影響を与えるかを示す貴重な研究になります。

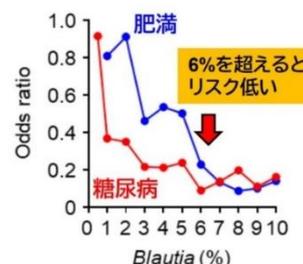
（参考）「腸内フローラ大調査」第1回（2023年4月）第2回（2024年4月）結果概要

<第1回：2023年4月>

・兵庫県加東市の子どもは“ブラウティア菌”が全国平均より多いことが判明

2023年4月に実施した被験者148名の腸内細菌叢調査の結果、加東市の子ども67名は“ブラウティア菌”の割合が平均7.20%と、全国平均5.77%より高い割合であることが分かりました。（全国平均：NIBIOHN調べ）

ブラウティア菌



ブラウティア（Blautia）菌は、人を対象にした複数の調査研究から、肥満の人でその割合が少ないことが明らかになっており、肥満などの私たちの体質や健康状態と関わっている可能性があると言われています。また、ブラウティア菌の保有が6%を超える人は肥満や糖尿病のリスクが低いという調査結果もあります（出典：Hosomi K et al, Nat Commun(2022)）。

・加東市民の食生活は脂質過多・食物繊維不足傾向ということが判明

<第2回：2024年4月>

・“ブラウティア菌”の6%以上保有者が56.7%と半数越えに

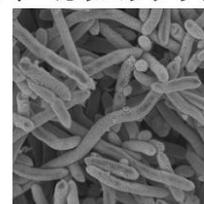
2024年4月に実施した被験者120名の腸内細菌叢調査の結果、“ブラウティア菌”の6%以上保有者が56.7%と、2023年4月の調査結果46.6%より高い割合であることが分かりました。

・「酪酸」を作る代表的な腸内細菌“フィーカリバクテリウム菌”の平均値が向上

2024年4月に実施した被験者120名の腸内細菌叢調査の結果、“フィーカリバクテリウム菌”の平均値が8.35%と、2023年4月の調査結果7.08%より高い割合であることが分かりました。

代表的な酪酸菌

フィーカリバクテリウム



フィーカリバクテリウム菌とは、日本人に2番目に多い腸内細菌です(NIBIOHN調べ)。近年、腸のエネルギーとなり、さらに腸管を守る働きをすることで、健康によい働きをされている短鎖脂肪酸「酪酸(らくさん)」を作る菌として、次世代のプロバイオティクスとしても注目されています。

「腸内フローラ大調査」概要

- 1) 調査期間 :2023年4月1日～2027年8月31日
- 2) 被験者 :加東市在学もしくは加東市在住の子ども（3～15歳）約54名とご家族約66名 総計約120名
- 3) 試験方法 :検便と生活習慣に関するアンケートを複数年度にわたり継続調査を行い、腸内フローラの変化について観察研究を実施する。
- 4)年間スケジュール:【4月】検査説明会、検査キットの配布、検便（2年目より食習慣チェックを実施）
【10-11月】結果説明会、タイプ別食習慣のご提案